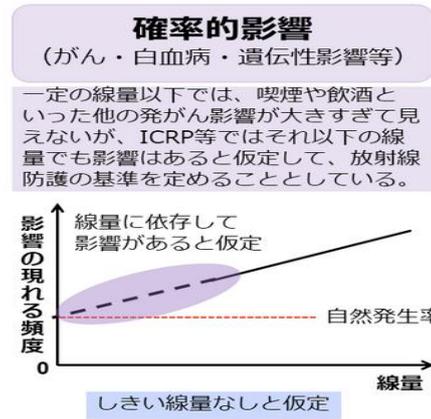
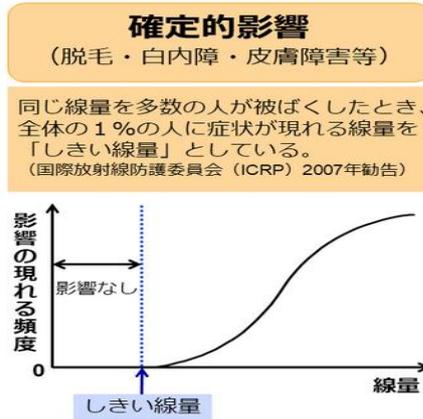


診療用放射線の安全利用について

- ・検査・治療の内容によっては透視時間および撮影時間が長時間に及ぶ場合があります。その場合、入射表面線量が多くなり皮膚障害や白内障などの障害が発生する場合があります。
- ・確定的影響のしきい値よりも低い線量で検査を行っています。
- ・当院では放射線検査を受けることによる便益が放射線被ばくのリスクを上回ることを検討の上、必要に応じた検査を提供しています。
- ・各検査室では放射線防護の最適化にも努めています。

◆放射線の体への影響



◆確定的影響のしきい値

障害	臓器/組織	しきい値(mGy)
一時不妊	精巣	約100
永久不妊	精巣	約6000
	卵巣	約3000
造血能低下	骨髄	約500
皮膚発赤	皮膚(広い)	3000~6000
皮膚熱傷	皮膚(広い)	5000~10000
一時的脱毛	皮膚	約4000
白内障	眼	約500

自然放射線

宇宙から	年間	0.30mSv
大地から	年間	0.33mSv
空気中から	年間	0.47mSv
飲食物から	年間	0.99mSv
TOTAL		2.10mSv

(1Gy=1Svとして換算)

◆当院の放射線検査の被ばく量

		当院(mGy)	国内標準線量(mGy)
血管撮影	心臓治療	1220	標準的な心臓治療 1300
	頭部治療	1340	急性脳動脈治療 2400
CT検査	頭部(成人)	60	67
	頭部(小児)	40	44
	胸部	8.5	11
	胸部~腹部	10.1	13
	腹部	9.1	14
	肝造影撮影	8.6(1相あたり)	13(1相あたり)
一般レントゲン	胸部	0.06	0.2
	腹部	0.4	1.4
核医学検査	骨シンチ	3.6mSv	3.6mSv
	心筋シンチ	15mSv	15mSv